

まちづくり通信

～協議会の理念～

交流と助け合いを通じて、
いつまでも住み続けられる
固有の環境を整える

第8号 平成26年(2014年)3月15日発行

3月2日(日)先進地研修視察イン十日町市・小千谷市

十日町市池谷集落

十日町市地域おこし実行委員会

移住女子 坂下可奈子先生

大学在学中に、農業ボランティアで十日町市池谷集落を訪れた際、心が引かれ、大学卒業後('11(平成23)年)当集落に移住する。

現在8世帯19人が、切り立った絶壁の上に民家や水田が点在する十日町市池谷集落。

平成16年の震災直後、この集落には通年を通し、毎週、各地から復興ボランティアが訪れた。

集落住民は、一度集落を訪れた方を親戚、2回目からはもう集落民。『ここに住んでいる人だけが村人ではない。』と、温かく接し支援者の心を離さない。

移住を決めた理由は、集落民が前向きで生き生きとして輝いていたという。この地にきて、生活の9割は不便と感じている。便利の良い都会と比べればキリが無い。残りの1割は『人の温かさ・新鮮な空気・ナスが昨日より色が良くなった』など、これらの小さな事とその不便さを一蹴するのだと。

坂下さんは、移住して4年目の春を向かえ、地域のブランド米、山清水米の生産に取りかかります。



小千谷市若柵集落 わかとち未来会議



現在、40世帯130人。地域コミュニティ復興への取組みで、平成18年2月に『わかとち未来会議』が発足。

震災前まで、集落の寄り合いなどではお母さん方が発言する機会が少なかったが、未来会議では発言の機会があった。この取組みが、現在の姿のきっかけであった。

建物被害より農地被害へのショックが大きかった。集落住民のそれぞれの考えが違っていたが、震災により、1週間以上も避難所生活と一緒に過ごし、現在では、考えがひとつになった。

集落内の古民家を買取り、再生し、農家民宿『おっこの木』を立ち上げた。震災以前は(男性)家長主体だった会議も、このおっこの木は女性の意見も反映される場。

食事は、集落のお母さん方の手づくりの料理ばかりで食材も地元で取れたものを使う。

訪れた方を手料理と独特の方言でもてなすお母さん方が、本当に元気で目が輝いていました。



『復活! 芸能祭』から3年目



バチのさばきも威勢よく、和やかな太鼓先太鼓。

新品カラオケいい調子、マイク片手に小首を傾げ、歌うあの歌手気分。衣装艶やか『人生勝負』うなじに残るは後ろ毛?むだ毛?粹な編笠深めにかぶり、目元口元ちょいと隠し、へ佐渡へ佐渡へとなびく舞。

狭い舞台で物足りず、余白が目立つ客席にあらわれ出でし押し車。ズ様とバ様あわくうて、郵便局に飛び込めば、マサルの局長うまいこと流行の詐欺と見破った。振込め詐欺に気を付けて! 拍手喝采、ざ・えんど!

塩野町 佐藤富喜子



● 8月	● 7月	● 6月	● 5月	● 4月	● 3月
31日	23日	8日	20日	3日	24日
防災訓練	24日 地蔵様参り	あさひスポーツフェスタ	蒲萄神楽 荒沢蔵王権現様参拝(荒沢)	大須戸能定期能 春まつり(八坂神社能舞台ほか)	小学校卒業証書授与式
	原小須戸・本小須戸神楽 早稲田神楽(天皇様)	小学校運動会 集落散策(塩野町予定) 春季消防演習(朝日方面)	講習会 幹部・新入団員・機械係		

地域関連の行事



★ 地域のお宝箇所

スクラムネット観光部会から



小須戸 姫宮神社 八坂神社

姫宮神社は小須戸の鎮守様である。『神社明細帳(明治十六年 1883)年』に『岩船郡小須戸字向山 無格社・姫宮神社』とある。

祭神は奇稲田姫命(くしいなだひめのみこと)で、稲作を司り、衣食住守護の神様である。

創立時期などは不明だが、御神木の切り株から年数を数え 500 年近くの歴史があると推測される。

明治三十九(1906)年に小須戸集落各地に、八坂神社(素盞雄尊)、八幡神社(應神天皇)、山神様(大山祇命)、神明宮(天照皇大神)、金刀比羅神社(崇徳天皇)が合併した。

拝殿には合併した神社のひとつ『八坂神社』の額が掛けられており、額の裏には、昔、小須戸の獅子舞(太神楽)を行っていた方々の寄進者 6 人の氏名が記載されている。

小須戸 渋谷俊男



地域外転出者へ 通信を送付いたします。

地域外へ転出された塩野町地域内出身者で、ご希望の方に当通信を送付します。

ご親戚・ご友人など送付のご用命の方は、協議会役員または事務局にご連絡をお願いいたします。

編集後記

3月の声とともに日に日に春の兆しを感じられるようになりましたが、皆さん、風邪などをひいてませんか?

さて、塩野町地域まちづくり協議会では年明け第1号『まちづくり通信』を発行することになりました。

今年も一年地域の交流、人と人の絆を大切に茶の間の皆さんへ『ほっとなニュース』を数多く届けられるよう頑張ってくださいと思います。今後ともご協力をお願いいたします。

ほっとニュースステーション 小須戸 渋谷俊男

発行：塩野町地域まちづくり協議会

編集：ほっとニュースステーション

連絡先：朝日支所地域振興課自治振興室(事務局)

TEL 72-6880 FAX 72-0328

E-mail as.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp

URL (ホームページ) <http://www.city.murakami.lg.jp>

シリーズ⑧

地域の茶の間

本小須戸 地域の茶の間

例年になく雪が少なく、過ごし易い冬になりました。それでも寒に入ると寒さで体が固まってしまう。そんな1月の17日と29日、本小須戸集落では、転倒予防教室が開かれました。

60代～80代の男女十数人が、中村保健師さん、健康運動指導士、伊藤さんの御指導のもと1時間半、運動を行いました。皆汗をかいて笑顔がはじけて楽しい時間を過ごしました。

春はもうすぐそこです。少しでも習った運動をして冬を乗り切りたいと思います。

本小須戸 小田富士子



2月2日(日)
ぶどうスキー場

スノーフェスティバルで 蒲萄集落による『おもてなし』



ぶどうスキー場でスノーフェスティバルが行われ、地元演歌歌手『朝日奈ゆう』による歌謡ショーや雪玉ストラックアウトなどで賑わいました。

この日、地元集落による『おもてなし』で蒲萄集落から、自慢の大鍋で煮る豚汁約450食が振る舞われました。

具材は前日から老人会の方々による準備。

当日は駐車場脇に仮設の炊事場を設け、味噌造りの際に使用する、大鍋で煮込んでいました。450人分の量をさかすには、この大きさが必要なかと、スケールと取り組みの大きさに驚かされました。

正午を過ぎ、場内に豚汁サービスのアナウンスが流れると、訪れていたスキーや家族連れが一斉に集まり、蒲萄集落の方々より直接手渡される熱々の豚汁は、大勢の“体と心”を暖めていました。